

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902371		
法人名	有限会社 バリーツウドウ		
事業所名	グループホーム プランタンIV		
所在地	旭川市2条通り16丁目500番地2号 (電話) 0166-24-1182		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年11月27日	評価確定日	平成20年1月9日

【情報提供票より】 (平成19年11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 9月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 9人, 非常勤 11人, 常勤換算 7.7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	6名	要介護2	1名
要介護3	5名	要介護4	6名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 80歳	最低 59歳	最高 90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	旭川ペインクリニック 東郷整形外科クリニック 林歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、市内中心部に位置し、買物や家族の来訪など利便性の高い地域である。当法人理事長は、長年整骨院を経営されており、その経験からマッサージや、リハビリを当ホームのサービスの一環として取り入れられ、精神的な支えはもちろん身体能力の維持向上という両面からのフォローを実践されているホームである。このことはまさに地域密着型サービスのポイントである「お世話する」のではなく「生きることを支援する」という姿勢がうかがえます。開設2年目で、地域で暮らす、支え合いなどは、今作りあげている段階で、職員と入居者が一緒に取り組んでいるところが見受けられ、これから地域に根ざしていかれることを期待します。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善課題は、職員全員で検討され即改善可能な項目は改善されています。そのほかの改善課題については、再度話し合い、改善に向け検討されることを期待します。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成に際しては、全職員で取り組み、ケアの進捗状況や見直しを行ない、日々のケアを活かせるよう話し合われています。地域密着型の取り組みが重視されている項目を確認しながら、内容を検討し話し合いが行なわれ、実践していくことを期待します。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成19年4月に1回目の運営推進会議が開催され、町内会長、病院事務長、利用者家族、利用者、管理者、介護支援専門員、地域住民が参加され、ホームの理念や倫理綱領、年間行事について報告され、参加者からホームへの意見、提案が交わされ、地域の事業者に対する理解を得る機会としています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に、職員が声掛けをし、気軽に意見要望が通りやすい雰囲気作りを心掛けており、意見や要望の際は速やかにケアに反映できる体制を取っています。重要事項説明書には苦情等相談受け付け窓口と外部機関が明記されています。玄関入口には、「意見箱」を設置しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の加入、地域の一斉清掃に参加、焼き肉パーティへのお誘い、地域の商店への日常買物の利用などの交流が行われています。しかし、災害時の地域住民の参加、協力を得ることは不可欠であるため、さらなる交流を深めていくことを期待します。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆったりした家庭の雰囲気大切に、一人ひとりの個性を尊重するという理念を職員と共有し、日々の実践に努力しているが、地域密着型サービスとしての理念の見直しはまだ職員で話し合っていない。	○	全職員が地域密着型サービスとしての意義を理解し、地域に根ざしたホームを作りあげるために、職員全員と話し合い、再考されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は目に付きやすいところに掲げており、管理者と職員はこれを理解し、日々のケアに心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会へ加入し、地域の清掃に参加したり、ホームの行事に地域の方々を招待して、徐々に地域の方々との交流が広がっているが、近隣の方々が気楽に立ち寄りたり会話を交わすような、親密な交流には至っていない。	○	地域の行事に参加したりホームの行事に招待するなど、さらなる親密な交流を積極的に働き掛けていくことを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を理解し、管理者、職員とともに取り組み、前回評価で指摘された改善点はミーティングなどで話し合い、改善に向け努力されている。		

旭川市 グループホーム プランタンⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年3回の運営推進会議が開催され、前回取りあげられた検討事項や、懸案事項については経過を話し合い、参加者からの意見、要望がだされ、今後のサービスの向上に活かそうとしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターとしての係わりは多いが、市とは、業務上の手続きの関係のみで、連携を取るまでには至っていない。	○	運営や現場の実情などを積極的に伝え、また、市から情報を提供して頂き、担当者との意見交換を頻繁に行ない、積極的な関係を構築されることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、利用者の様子を伝えたり、身体状況に変化があったときその都度伝えている。金銭出納帳は定期的に家族に送付している。	○	ホームに来訪されない家族もいるので、定期的に家族にホームでの様子などを「お便り」など、広報物の発行や、家族会の発足も考慮されることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が家族の来訪時に声掛をし、意見が言いやすい雰囲気作りをしている。、意見や要望がでたときは速やかに対応するようにしている。玄関に「意見箱」を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までは職員の出入りは多かったが、最近は落ち着いている。やむを得ず変わる場合は、利用者が不穏にならないように、新しい職員には十分に利用者の情報を伝え、個別の配慮ができるようにしている。		

旭川市 グループホーム プランタンⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	包括支援センターで開催される認知症の研修には、管理者、主任が受講し、ミーティング時に全職員に報告している。具体的な外部研修、内部研修の年間計画は作っていない。	○	全職員が外部研修を受けれるように年間計画を立て、ホームのスキルアップにつなげるよう期待する。また、内部研修も定期的に行なうことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、主任は同系列のグループホームとの情報収集や意見交換は盛んに行なわれているが、職員の参加はない。ほかのグループホームとの交流は行なわれていない。	○	管理者、主任だけでなく、ほかの職員も同系列のグループホームだけでなく、ほかの同業者との交流を図る機会を設け、ケアに反映されることを期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と利用者と面談し、ホームを見学して頂き、納得のうえ入所されている。どうしても利用者がホームに来れない人はこちらから職員が出向き、面談して信頼関係を築きながら入所してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるということを職員は共有しており、得意なことを教えて頂いたり、一人ひとりの、活躍して頂く場面作りを工夫し、ともに支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に家族や利用者から情報収集を行ない、過去の経験や嗜好を把握しており、利用者本位の支援が行なわれている。利用者との会話を通して、日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1度、カンファレンスが行なわれ、利用者一人ひとりの状態が報告され、職員と情報が共有され、計画作成者が家族の要望とともに職員の気づきを介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月毎に介護計画の内容見直しを行なっている。状態に変化があるときはその都度介護計画を見直し新たな介護計画が作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望にあわせて、通院介助や買物、散歩の同行など対応している。ホーム独自のサービスとし希望者に無料でマッサージの施術サービスが行なわれ、身体機能の低下や痛みの軽減に努めている。		

旭川市 グループホーム プランタンⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する病院への通院や受診支援を行なっている。受診内容はその都度電話や面会時に家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書などに重度化や終末期にむけた指針や同意書は整備されていないが、随時、必要と判断されるときに、家族、掛り付け医と話し合い方針が共有できる体制になっている。	○	重度化や終末期にむけた指針や同意書の整備をされることを期待する。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報とは言わないことは職員は遵守事項として認識している。また、利用者の尊厳、プライバシーを損なわない対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての決まりごとや、生活のリズムへの配慮はあるが、ホーム側の都合に合わせるのではなく、一人ひとりの生活歴や体調を考慮し、ペースに合わせた暮らしの支援をしている。		

旭川市 グループホーム プランタンⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後片付けなどは、それぞれの力量に応じて職員と一緒にこなしている。介助の必要な方へは、サポートされているが職員と一緒に食事をしていない。	○	テーブルの位置を変える、テーブルを追加するなどして、職員の席を用意し、入居者と一緒に食事をしながらサポートすることを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回と決まっているが、本人の希望や状況に合わせた対応がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの興味や力量に応じて調理の手伝いや、花や野菜の水やり、洗濯物たたみなど、職員と一緒にこなしている。夏場には買物や遠出をしたり、カラオケなど楽しみごとの支援を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の商店への買物や散歩、通院の介助、遠出のドライブなど利用者一人ひとりに添った支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	構造上、玄関は職員のいる所から見えなく、またホームの玄関は交通量の多い道路に面しているため、安全を考えて日中も鍵を掛けている。	○	職員がどうしても、目が行き届かないときを除いて、チャイムやセンサーを付けるなどして、日中鍵を掛けないよう、工夫をされることを期待する。

旭川市 グループホーム プランタンⅣ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は近日中に実施を予定しているが、災害時の地域の協力体制はまだ地域住民に働き掛けてはしていない。緊急連絡網はこれから作成する予定である。	○	日頃から、隣近所に声掛けし、災害時のときなど援助してもらえるような協力体制を構築されることを期待する。また、早急に緊急連絡網も作成されることを期待する。
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や健康状態が一目でわかる一覧表が作成されており、職員で共有している。水分量は水分摂取量が不足しがちな利用者のみ、記録している。	○	高齢者はいつ状態が変化するかわからないので、全員の水分量を把握することを期待する。
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく、ゆったりしており、清潔である。また、気になる臭いや音はない。居間には食卓テーブルや椅子のほか、ソファが置かれ、くつろげるスペースが確保されている。居間には職員と利用者の手作りの作品が飾られ、暖かい雰囲気を出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者のなじみの家具や仏壇、写真、装飾品などが、持ち込まれ、居心地よく過ごされる配慮がされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。